

「豊岡市社会教育基本計画」

※抜粋

第1章 計画の概要

○策定の趣旨

本市の社会教育をより一層推進するため、市の社会教育のめざす姿や社会教育行政が果たす役割を示す「社会教育基本計画」を策定することとしました。

○位置づけ

社会教育を含む関連諸計画等と連携を図りながら、社会教育関連施策を総合的に推進します。また、庁内の各部署においては、本計画の基本理念を踏まえ、施策や取組を行うとともに、関連諸計画等の策定（改訂）を行います。

第5章 計画の推進

○推進体制

(1) 庁内推進体制の強化

計画の推進にあたっては、教育委員会（社会教育課）が中心となり、庁内で情報を共有し、関係部署との連携を強化します。

(2) 推進会議（仮称）の設置

施策等に対する意見等を聴き、効果的な施策の展開を行うため、社会教育関係者、学校教育関係者、関係団体等関係者、保護者、学識経験者等で構成される会議（委員会等）を設置します。

○進行管理

本計画に基づく施策の実施状況については、各事業の所管課が事業等の点検・評価（自己評価）をまとめ、社会教育課がその成果と課題を把握し関係部署と情報共有を行いながら施策を進めていきます。

1 全体的な流れ

(1) 評価のポイント

○「所管課による自己評価」と「外部（推進委員会）の意見聴取」

○ 関連諸計画等における社会教育関連施策について、計画の基本理念・基本方針に基づき評価・検証を行い、次年度以降の施策等に反映させる。

○ 評価・検証は、単年度ごとに行う。

(2) 評価・検証の流れ

①所管課による自己評価

共通の「評価シート」を用いて所管課が評価・検証を行い、その結果を社会教育担当課が取りまとめる。

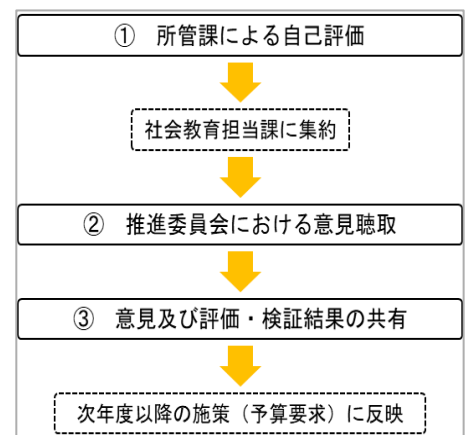
②推進委員会における意見聴取

所管課が作成した「評価シート」をもとに、推進委員会で意見聴取を行う。

③推進委員会の意見等の共有

推進委員会の意見を社会教育担当課から所管課にフィードバックするとともに、各課の評価検証結果を関係部署にも共有する。（庁内での情報共有）

〔評価の流れイメージ〕



2 評価・検証の方法

(1) 作成資料

評価には共通の「別紙_評価シート」を用いる。評価シートは、計画（計画を策定しない場合は事業）ごとに作成する。

所管課が作成した「評価シート」を基本方針ごとにまとめ、委員会会議資料とする。

(2) 「評価シート」作成要領

【4月（年度当初）】

◆ 取組内容

ア 「基本方針」及び「施策の方向性」ごとに、当該年度に実施する取組の内容を具体的に記載する。

[記載内容]

①新規：今年度からの新たな取組 継続：前年度からの継続した取組

変更：前年度までの取組を変更（拡充・改善等）した取組

②取組（事業）名 ③目標（目的） ④対象 ⑤内容

⑥指標（目標値）※あれば ⑦その他特記すべき事項

イ 取組が複数の「基本方針」、「施策の方向性」に該当する場合、それぞれに記載するとともに【再掲】と記載する。なお、いずれかの方針、方向性に重点を置いて取り組む場合は、該当する方針又は方向性にのみ記載することも可

【12月】

◆ 取組状況

ア 参加人数、回数、参加率など数値化できるものは、評価時点（直近）の実績数値を記載する。「取組内容」欄に指標（目標値）を記載したものは、必ず実績数値を記載する。

イ 年度当初に記載していない取組があれば「取組内容」欄に〔追加〕と記載し、取組内容、取組状況、評価を記載する。

◆ 所管課評価（次頁フローチャート参照）

ア 所管課評価は、「基本方針」及び「施策の方向性」の視点で行う。

イ 当該年度の取組状況の評価を行うとともに、次年度以降の取組方針も見据えたものとする。

ウ 前年度から継続した取組の場合は、前年度からの取組を踏まえて評価する。

エ 所管課評価「現状分析」「今後の方向性」「検証結果」の選択方法は、次のとおり。

I 「現状分析」を行い、該当する選択肢を選択する。

- ① 目標（目的）が達成された
- ② 事業計画が完了した
- ③ 目標（目的）の達成に効果があった
- ④ 現時点では効果が表れていないが、継続して実施することで効果が期待できる
- ⑤ 取組の効果が見られない（効果がない、薄い）
- ⑥ 取組内容や実施方法に課題がある

II 「現状分析」を踏まえ、「今後の方向性」の検討を行い、該当する選択肢を選択する。

- ① 取組を終了する
- ② 取組の規模（内容、対象など）を拡充（発展）して継続実施する
- ③ 現行方法（内容）で継続実施する
- ④ 取組方法（内容）の改善（見直し）を図りながら継続実施する
- ⑤ 取組を継続するためには、取組方法などを一から見直す必要がある
- ⑥ 取組を継続する必要性がない
- ⑦ 他の取組に変更（統合）するため、取組を廃止する

III 「現状分析」「今後の方向性」の結果を受けて、「検証結果」の評価記号を決定する。

- S 目標達成・取組完了（達成・完了による取組終了）
A 継続実施（拡充・現行方法（内容）による継続実施）
B 改善実施（改善・見直しによる継続実施）
C 抜本的見直し（見直しを行い実施）
D 取組廃止（効果・必要性等から取組を廃止）

オ 「自己評価の理由」欄には、単に実施状況を記載するのではなく、評価の理由、成果や課題、今後の改善点や方向性を記載する。

□ 所管課評価「現状分析－今後の方向性－検証結果」フローチャート

Ⅰ 現状分析	⇒	Ⅱ 今後の方向性	⇒	Ⅲ 検証結果
①目標(目的)が達成された ②事業計画が完了した	⇒	①取組を終了する	⇒	S 目標達成・取組完了 (達成・完了による 取組終了)
③目標(目的)の達成に効果があった ④現時点では効果が表れていないが、継続して実施することで効果が期待できる	⇒	②取組の規模(内容、対象など)を拡充(発展)して継続実施する ③現行方法(内容)で継続実施する	⇒	A 継続実施 (拡充・現行方法(内容)による継続実施)
	⇒	④取組方法(内容)の改善(見直し)を図りながら継続実施する	⇒	B 改善実施 (改善・見直しによる継続実施)
⑤取組の効果が見られない(効果がない、薄い) ⑥取組内容や実施方法に課題がある	⇒	⑤取組を継続するためには、取組方法などを一から見直す必要がある	⇒	C 抜本的見直し (見直しを行い実施)
	⇒	⑥取組を継続する必要性がない ⑦他の取組に変更(統合)するため、取組を廃止する	⇒	D 取組廃止 (効果・必要性等から取組を廃止)

3 推進委員会における意見聴取

委員会では、基本方針ごとにまとめた「評価シート」に基づき、この計画の基本理念及び基本方針の実現に向けて、取組全般にわたる意見や、次年度以降の取組を進めていくにあたっての改善点や助言等を行う。

※関連諸計画の中には、理念や指標等を定め、評価・検証等を行う委員会等を設置しているものもあるため、評価・検証等が二重とならないよう留意する。